

小説部門

応募
総数 259 作品

● 選考経過

一次選考通過

106 作品

二次選考通過

15 作品

最終選考候補

4 作品

選考委員

秋津 透、久美沙織、中村うさぎ



総評

秋津 透

今回の選考は、非常に難しかった。最終選考に残った4作品すべてが、まるで申し合わせたかのように、ある面で非常に優れた要素を備えながら、他の面で黙視できない難点を持っていて、しかも、それぞれの作品の優点、難点が全部違う。どの作品も、ストレートに褒めるわけにもいかず、かといって簡単に切り捨てることもできず、侃々諤々、討議を重ねた末に、大賞なし、優秀賞2作、佳作2作という結論に落ち着いた。選考委員のひとりとして、この結論に相応の自負はあるが、それでも今回は敢えて言いたい。これらの作品をどう評価すべきか真に決めるのは、店頭で本を手にする読者ひとりひとりだと思う。

久美沙織

4作すべて面白く、最後まで読みたいと思わせてくれました。しかし去年の『ガーゴイル』を思い出すと、やや小粒に見えてしまいました。個性的キャラやフェティシズムなど、ウケやすい設定はあるものですが、そこにあまり寄りかかりすぎるとどうしても典型的になります。なにが書いてあるにしろ、文章を、よく手になじんだ自分の道具として自由自在に使いこなしているように感じられるものに、一日の長の魅力があります。同じ譜面のメロディでもプロが奏でるのは安心して聞けるけれど、練習中のひとが弾いているのはちょっとツライ。語るべきストーリーをみつけたら、どう表現すれば最もステキになるかについて、繊細に気を配って欲しいと思います。

中村うさぎ

いつもそうなのだが、今年はまた特に「選考の難しさ」を突きつけられた感があった。将来性を買うのか、即戦力を評価するのか。総合平均点の高さで選ぶか、突出した個性を重視するか。視点を変えれば、あっという間に順位が逆転する……そういう意味では、どれもそれぞれに軽視しかねる長所と弱点を併せ持ち、結果的には甲乙つけがたい出来栄の力作揃いだった。ただ、その長所と弱点の極端さゆえ、大賞に該当する作品はないと判断した次第である。あとは、それぞれの書き手がどれだけ己の武器に磨きをかけられるか、だ。化けるとデカそうな作品もあった。ビクビクしつつ、期待しております。

優秀賞『渚のロブスター少女』

PROFILE
プロフィール

あきさか あさひ

早稲田大学理工学部を優秀すぎて留年したりしつつ卒業後、アミューズメントメディア総合学院に入学、卒業。現在に至ります。

受賞の言葉

ただただひたすらに、とにかく、嬉しいです、としか言いようがありません。私の作品を優秀賞に選んでくださった選考委員の先生方、編集部みなさま、本当にありがとうございました。

作品紹介

海老原^{みお}深青は、『ちょっとした善行』をしたいと思いつつも躊躇してできないような、ごく普通の中学2年生。イルカと一緒に泳ぐ夢を叶えるため、14年ものカナヅチ歴を克服すべく奮闘しているが、いくら泳ぐ練習を続けても、深青のカナヅチは一向に治らない。「今年の夏こそは、泳げるようになろう」夏休みを迎え、青空に拳を握り、そう誓う深青であった。そんな時、深青は兄・真太郎から海難救助用作業メカ『R・ユニット』——どう見てもザリガニ型——を着て『正義の味方』をやって欲しいと頼まれる。泳げない自分に不安を覚え返答できずにいた深青だったが、お気に入りのイルカ・ククーラの危機を目前にして『R・ユニット』装着を決意する。怪我をしたククーラの血を嗅ぎつけたサメが迫る——。「海老原深青、行きますっ!」こうして深青の『ロブスターガール』としての夏は始まった! ……輝く太陽の季節の中、少女のひと夏の成長を瑞々しく描く会心作。

選評

秋津 透

少女のささやかなひと夏の成長物語と、アブないマッドサイエンティストである兄の趣味嗜好全開な設定と展開を、かろうじてバランスを取って爽やか風味にまとめた作品。作者自身は兄に同調しているのが見え見えで、いわゆる「萌え」を共有する読者には共感を呼ぶが、「萌え」要素の合わない人には激しく嫌われるかもしれない。しかし、男性の妄想を基盤とする割には、主人公の少女が比較的まともに書けており、その点は評価できる。

久美沙織

兄→メカ、兄→妹(スクール水着の)の圧倒的な熱意に比べて、妹→イルカがあまりに弱く、説得力がなかった。作者さまご自身がイルカなどにはあまり興味がおありではないのでは?たとえば、泳げなくてもイルカと遊べますよ。救命胴衣をつければ。プールで、飼育員のひととあれだけ仲が良かったら、それ頼めばいい。その体験を踏まえて「でも、やっぱり泳げるようになりたい!」なら、サメがウヨウヨいる海にいきなり飛びこむ勇氣にリアリティが出ませんか。わたしはこの身勝手に無責任な兄や謎の地下研究室を「ありえない」と感じましたが、他選考委員に激賞されてちょっと考えなおしました。

中村うさぎ

美少女フェチ、妹萌え、スクール水着など、一步間違えれば私の個人的地雷をガンガン踏んで、激怒させかねない作品であった。なのに私は、この作品を押した。これだけ身勝手な欲望に溢れておりながら、この手の作品にありがちな重大欠陥……すなわち「少女キャラの薄っぺらさ」がまるでない。きちんと書けているのだ、ヒロインの葛藤も、人間としての奥行きも。しかも、ドロドロしてるくせに爽やかなのだ。うーむ、只者ではない!

優秀賞 『緑竜亭繁盛記』

PROFILE
プロフィール

橘 柑子
(たちばな こうじ)

地元山梨から出たことがない。大学を卒業後、本屋のアルバイトを経て高校図書館に勤務。読書好きというより本好き。

受賞の言葉

自分の得意な部分を活かすことを考えて書いた作品なので、過大な評価を頂きたいへん恐縮です。ありがとうございます。

作品紹介

闇の森のほとりにたたずむ緑竜亭には、人外の客が集う。人狼のブラックや不死者アンバー、穴小人のミゼン爺らの巻き起こす騒動に、看板娘のリユンはてんてこまい。「やあめんかこのバカどもおお!!」今日も今日とてリユンの怒声&拳(たまにお盆)が飛ぶ。——そんなある日、白銀の鎧の騎士が緑竜亭に現れる。薔薇色の頬に蜂蜜色の巻き毛、空色の瞳をした、絵に描いたような王子様の目的は、ヒキガエルに変えられた愛しの姫の呪いを解くべく、沼地の魔女に会いに行くこと。黒装束の刺客には襲撃されるわ、王子は沼地の魔女を怒らせてカエルに変えられてしまうわ、王子の婚約者の凜々しいお姫様や尊大なヒゲ貴族までやって来るわで、静かな森は大騒ぎ。さらに、一連の事件の陰には黒幕の存在まで見えてきて……!? 人間と人外の混じり合う境界の世界を舞台に、軽快に疾走するコミカル・ファンタジー。

選 評

秋 津 透

構成力は最優秀。各キャラクターがきちんと自分の役割を果たし、話の展開にも破綻がない。しかし、事件は起きているのに、妙に淡々として盛り上がりには欠け、読後の印象が薄い。また、物語の最初と最後で、主人公の思考や感情に、あまりにも変化が乏しい。変化する物語を流れる川だとすると、この話は、流れのない沼に、一時的な波風が立った後、何事もなく元に戻ったように思える。「それで?」と聞きたくってしまうのだ。

久 美 沙 織

いちおしさせていただきました。異世界の等身大のリアルが生活感たっぷりに描けていて大好きです。登場キャラクターがひとりひとり可愛らしく、そのバランスがばっちり。×××が××を食うところで大爆笑! ひとつだけ難を申せば、なまじ描写力があり文章がお上手なので、語り手がよく知っているはずの誰かのことを「まるで読者に紹介しななければならないことをメタに意識しているかのように」詳しく語りすぎるのがちょっと気になったことぐらい。いろいろな作品を書いてみせて欲しい期待の作家だと思いました。

中村うさぎ

とにかく、巧い! 文章も練れている、キャラも立ってる、ストーリーにも破綻なく、ぐいぐい読ませるテンポもある。非常に平均点の高い作品だ。ただ、惜しむらくは、あまりにソツがなさ過ぎて、読後に強烈に残る印象がない。本当にこれが書きたかったのか、という疑問すら残る。何を書かせても巧く書けそうなだけに、荒削りの迫力に欠けるのだ。口にするると簡単だが、じつは厄介な「個性」という武器。これが今後の課題である。

佳作『超高速機動粒子炉船(チョコロせん) 春一番』

PROFILE
プロフィール出泉 乱童
(でいずみ らんどう)

横浜市在住。平成元年、上智大学文学部社会学科卒業後、信用金庫に13年間勤務。その後、社会保険労務士を目指して退社。しかし未だに合格できず、今回の作品はその失意の中で書いた作品です。

受賞の言葉

多くの事に流されてきた私ですが、私の中で「話」と「人間」を作る事だけは捨てられないで、今日まで来ました。今回の受賞を聞いて、本当に捨てなくてよかったと思っています。どうもありがとうございます。

作品紹介

遠い未来、人類が宇宙で戦争している頃。アオイは十三歳という若さで、「RE」——記憶を消された敗残兵として、超小型戦闘船「春一番」に配属となる。呑気で飄々とした船長、厳格な副船長リントウ、無愛想なおペレーター、そして戦闘機規格型ロボットNACに助けられ、アオイは何とか船内の生活に慣れていくが、記憶がないがゆえの自信のなさからか、自分の居場所を見つけれない。そして、「春一番」での初戦闘の日、アオイの失敗からNACが被弾してしまう。しかし、アオイの眼前で壊れたNACの中から、美しい女性が現れ……。ナナと名づけられたその女性の正体、そしてNACの代わりに戦闘機に乗ったアオイの超絶的な戦闘能力の理由が明らかになったとき、アオイは自分の存在理由はどこにあるのかという問いを突きつけられる。戦いを続ける世界にあって、人と人との関わりを問い直す、ハートフル・ストーリー。

選評

秋津 透

宇宙戦争ものだが、爆風が起きたり上下が決まっていたりで、宇宙がまるで宇宙に見えない。キャラクターの心理表現は紋切り型、視点もふらふらと定まらず、何というか、ひと昔以上前のTVアニメを、漠然とノベライズしたものを読んでいような気分になる。だが、そういう稚拙な点に目をつづれば、長い戦争で狂気が日常化した軍組織と、その中で懸命に生きようとする人間を真っ向から書こうと試みており、真摯な姿勢には好感が持てる。

久美 沙織

ビジュアルを想像するとステキなシーンがたくさんあるのに、それを伝えきる文体をお持ちでない点が残念。時代背景にあわない比喻、視点の混乱、メタ視点(地の文で、作中人物にはわかりえないことを読者にむかって説明してる)、意味不明の略語、「?」や「……」の使い方など、小説として読みにくすぎました。また、特定の病気差別になりにかねない話題を不用意に持ち出してしまっているなど、ワキが甘い。ただし、お話そのものは優しくあたたかく感動的でした。発想はデキるひとだと思う。いきなりカレー、よかったです。

中村 うさぎ

ある意味、『緑竜亭繁盛記』の対極にある作品だった。大きなテーマを書こうとしている心意気は買う、言いたいことが強烈にある情熱も買う。だが、文章もキャラもストーリーも、あまりにも未完成だ。しかも、一番の欠陥は「心理描写の希薄さ」である。モノローグを使うなどして、主人公の内面をもっともっと掘り下げなければ、せっかくのテーマもメッセージ性も生きてこない。人間を書く練習を積んでください。魅力はあるのだから。

佳作『狂乱家族日記』

PROFILE
プロフィール日 日 日
(あ き ら)

奈良県で生誕。男。現在は千葉県立の高等学校で受験戦争まっさかり。でもあんまり戦ってない。うまくごまかしている。

受賞の言葉

「えんため大賞」というハイエンドな名前に引きつけられて投稿させていただきました。名前は大切です。個人的にはその名もズバリえんため大賞が欲しかったんですが、駄目だったようです。悔しいな。

作品紹介

「その醜くも穢れきった指先で凶華サマのおやかな御腕を掴むという冒瀆的行為を今すぐやめろこのユダの背徳者」ある日、大日本帝国超常現象対策一課勤務の公務員・乱崎風火は、出勤途中に凶悪な罵倒語を繰り出すネコ耳少女・凶華と出会い——平穏な日常を失った。古代の破壊の化身——「閻魔」——そのDNAを持つ凶華と強制結婚させられたあげく、同じく「閻魔」のDNAを持つ子供たち「ふたりと二匹とひとつの何か」の父親とされてしまったのだ。人類の命運を背負う重大任務「なごやか家族作戦」の名の元に降りかかる理不尽な展開に、ある時は現実逃避し、またある時は茫然自失しながらも何とか共同生活をこなす風火。そんな中、唯一問題ないと思われていた長女の優歌の異変が、この奇妙な家族に波乱を呼ぶ。そしてその時凶華が発動した『乱崎家』初の共同作戦とは!? ……新世紀の絆の在り方を問う驚愕の超ファミリーノベル!

選評

秋津 透

4作品の中で、最も読みにくい。話の進み方はスピードで、思わせない設定が次々に出てくるが、その設定を生かす場面がほとんどない。長編の冒頭部のつもりなのか、呼応の呼だけあって応がないまま、なし崩しと肩すかしだけで終わっている。しかし、キャラクターのひとり、過激で高飛車で凶暴な自称神の猫耳少女が、これでもかとばかりに連発する罵詈雑言に独特のリズムとインパクトがあり、読後の印象は不思議なほど強かった。

久美 沙織

「確かに一等でゴールに飛びこんだが走行違反の疑いがあり審議のランプが点灯中」な作品。はじまったかと思ったらエンディングな点など、応募作品として破綻していますが、それでもいい、と言いたくなる魅力を感じました。凶華さまサイコー。セリフを覚えて使いたい。西尾維新さまのファンですか? 長年かけて練り上げた膨大な蓄積があるに違いないので、小さくまとめず、100枚ぐらいのエピソードを回数多く書いてみせて欲しい。この家族にまた会いたいです。17歳男子でここまで早熟で元気でたくみで自信たっぷりな書きっぷりに頼もしさを感じました。

中村 うさぎ

これもまた、不思議に魅力的だがソツがあり過ぎて、評価に困る作品だった。とにかく、キャラの作り方と会話の面白さはダントツである。ライトノベルはキャラクター小説だ、と定義するのなら、これはライトノベルの武器を文句なく備えている。ただ、エピソードの安易さや、確信犯的「竜頭蛇尾」がきちんとオチになってない、など、見逃せない粗雑さがどうしても気になってしまった。作者は、まだ若い。これからの成長が楽しみだ。

東放学園特別賞『生ける少女のパヴァーヌ』

PROFILE
プロフィール佐 藤 了
(さと う り ょ う)

高校まで長野県の軽井沢町ですごし、埼玉の大学を卒業した後、東放学園専門学校へ。今年度、同校卒業予定。埼玉県在住。

受賞の言葉

東放学園特別賞をいただき、本当にありがとうございます。いろいろと予定通りにいき過ぎて、ちょっと怖い今日この頃です。どうしよう……。

選評

笠原 次郎 えんため大賞事務局長

ラブコメディックな導入から、しだいにヒロインが巻き込まれた事件の全貌があきらかになっていく展開など、読者を楽しませるためプロットに腐心したのがうかがえる。ただし、残念ながらもう一息。結末の安易さ含め、全体にもうひとひねり工夫がほしい。

コミック部門

応募
総数 316 作品

● 選考経過

コミック部門の最終選考候補は「月刊コミックビーム」のマンガ大賞入賞者がノミネートされます。

最終選考候補

8 作品

選考委員

呉 智英、しりあがり寿、永井 豪



総 評

呉 智英

今回は今まで、一番選考が難しかった。受賞作以外でも、他の作品で完成度が高いのがあったのですが、新人賞の性格を考えた時に、あまりふさわしくないとの理由から、あえて落としました。それ以外の作品での争いになったのですが、いずれも頭抜けた作品が見つからず、受賞した作品とその他の作品との格差はいずれも僅差であると思います。

しりあがり寿

正直、困っちゃいました。ですが、米山さんの妙な感覚と原さんの素直な感じに惹かれたので、押してみました。でも、他の作品もそんなに正直、差が無いと思います。もっと、無茶でもいいから個性的なアプローチがあっても良かったかなあ……って思ってます。

永井 豪

いずれも決定的な要因が見当たらず、正直言って低調な感否めなかったのですが、新人らしい作品と言う理由で選考を行った結果、以下のような結果となりました。今後はもっと、プロの漫画家を目指すのだという意識を高めて望んでいただけたら……と希望します。

奨励賞『Xploitation』

全23P

PROFILE

岩瀬 玲子

プロフィール

(い わ せ れ い こ)

栃木県宇都宮市在住。

受賞の言葉

この賞を頂いたことを励みに、さらに精進したいと思います。ありがとうございました。

作品紹介

近未来、ひたすら殺戮を繰り返す人々が現れた。彼らの名前は「バーサク」。そんな彼らに一人の女が戦いを挑んだ。その女は無類の強さを発揮し、ひとり、またひとりと「バーサク」のメンバーを倒してゆく。最後の男との決戦を前に、女の脳裏に浮かんだのは……!?

選評

呉 智 英

たぶん絵を描くこと自体が大好きなんだろうけど、話が全くわからない。絵だけはすでにプロレベルに達しているの、普通だったら原作を付けたらいいことになるんだろうけど。もう少し物語りに気持ちを傾けてくれたらいいのに。

しりあがり寿

この人は、結局、人間の狂気を描きたいんだろうけど、物語ももちろん、描写の中の狂気のパワーも物足りない気がする。特に、今みたいな状況の中では、相当なものを描かなきゃ、厳しいと思うなあ。ところでタイトルの意味は何?

永井 豪

話がわからないのは、物語の背景が全く描かれていないせい。絵は本当に面白い絵を描いているのになあ。これだけのページ数を使ってるのに、アクションだけじゃあ、もったいないね。



奨励賞『うっゝの幻画堂』

全16P

PROFILE

原 鮎 美

プロフィール

(は ら あ ゆ み)

愛知県一宮市在住。

受賞の言葉

初めての事なので、とてもうれしいです。これからも頑張りますので、編集部の皆様よろしくお祈りします。

作品紹介

書道家の祖父に育てられた令治は、文字を書くより絵を描くのが好きな高校生。ある日、祖父のもとにやってきた不思議な画材屋・幻画堂から筆を手に入れたのだけれど、これがなんと、描いたもの全てに魂が宿ってしまう魔法の筆だった!?

選評

呉 智 英

絵はまだ未熟なだけども、こういった民話風な話は雰囲気がある。悪くはない。ただ、やっぱり優等生的にまとまりつつあるので、そこに不安を感じる。もう少し、作家的な毒を感じさせてくれないと強い印象は残せない。

しりあがり寿

このまま描いていけば、どんどん上達していく気がするけど、ちょっと、安易にまとめる感じがする。オチでネコがでてくるけど、なんで女性作家は最後にネコを出したがるんだろう? 不思議だ。

永井 豪

こういった作風であるのなら、一層キャラクターを工夫しなくては辛い。登場人物が全般的におしなべて平板になって、印象に残らない。全体的なまとまりは悪くないので、余計にその部分が惜しいように思えちゃうなあ。工夫すればまだまだ面白くなるのに。



奨励賞『乙女の祈り』

全20P

PROFILE

松 本 藍

プロフィール

(ま つ も と あ い)

埼玉県和光市在住。

受賞の言葉

驚きました嬉しいです。ラッキーだと思いました。ありがとうございました。

作品紹介

読書家の高校生(女)の小川さんは、最近、同級生のかちこ(やっぱり女)のきれいな髪を見て、心がドキメいてしまっている。ある日、小川さんは偶然、かちこに恋人がいることを知り、強烈なショックを受けてしまう……!?

選評

呉 智 英

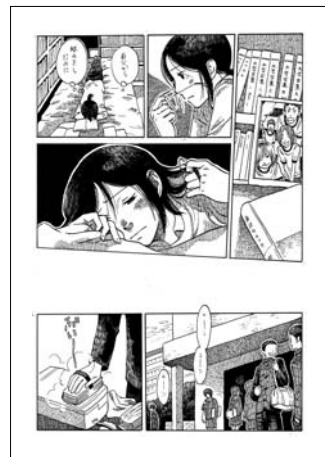
絵も話もそんなに悪くないし、全体的にそこそこのレベルに達していると思う。ただ、恐らくこのままだと、雑誌に載せた時に埋もれてしまう。特にビームだと余計に厳しいんじゃない?

しりあがり寿

基本的に人間の生きていく上での、細々とした日常を描こうというスタンスには好感が持てるんですよ。でも、そこから先は、もっと“イイ嘘つき”になれるように頑張らないと、プロとしてはきついと思います。

永井 豪

学生時代の甘酸っぱい感覚は、ちゃんと出てるし、しっかり描けてるとは思うけれども、それが読者にとって面白いかって考えると、全くの別問題。もっといろんな角度から素材の選定が必要なのではないか。



イラスト部門

応募
総数 872 作品

選考委員

CARNELIAN、木村明広、天広直人

● 選考経過

イラスト部門の最終選考候補は「マジキュー」のイラスト大賞入賞者がノミネートされます。

最終選考候補

14 作品



総評

CARNELIAN

昨年に続き、今年も選考委員としてえんため大賞に参加させていただきましたが、前回に比べて応募作品のクオリティの底がぐっと上がったな、と云うのが初めの印象です。しかし、美少女という人物に絞り込んだテーマのせいか、どうしても描き方や見せ方が似通ってしまっており、底は上がったものの、無難の多いそろばん玉状態でもありました。それでも前回のような、キャラが立っているだけで背景なし……というような作品はなくなり、風景や人物数人を絡めた情景が描かれた作品が多かったようです。紙やディスプレイは平面でも、絵描きはそこに世界の奥行きをつくることができます。その奥行きが、何かしらのパッションを表現していて、私自身を例に挙げれば、美少女的表現パッションは差し詰めほのかなエロスやちりぢみ？でしょうか。応募する皆さんには、紙に描かれた5W1H以上の何か、見た人に、それ以上の感情をひきおこす読者に魅せたい「なにか」を閉じこめてもらいたいです。美少女という嗜好が細分化した、お約束の厳しい世界で、個性を表現するのは難しいかと思いますが、上で述べた、「なにか」こそが美少女での個性かなと思います。チョコボンボンのように、表側は食べやすいチョコレート（美少女としての流行の画風テイスト）で先ずは読者の口に放り込み、チョコが溶けたら作家それぞれ違った味がするお酒でびっくり……、そんな美少女というフィルターで表現する、作家それぞれのセンスやオリジナリティをこれからの作家さんには期待したいです。

木村明広

自分は今回で4回目になりますが、年を追う毎にえんため大賞らしくなって来ていますね。キャラ絵が増えて、実力も上がって来ている様に感じます。今回も大賞が出せなかったのは残念ですが、えんため大賞としての大賞と言うものの価値は下げたくないという思いがありますので……。それでも今回の優秀賞と佳作の4人は、即戦力としても行けるんじゃないかと思っています。でも売れるかどうかは別問題ですから、彼等には与えた土台を余す所なく使いこなしてもらって、『使える』から『売れる』への飛躍を期待したいです。

天広直人

美少女というテーマが浸透してきたようで、最終選考では、このテーマの中での選択の幅がふえたように感じます。それはよいことなのですが、質と量の双方を考えあわせると、突出したものはやはり見受けられませんでした。イラストの世界でプロとして続けていくからには、これから何百枚という数の作品を描いていくことになります。求められる世界観もいろいろです。それを踏まえたうえでのプレゼンテーションの仕方というのを、みなさん、考えてみてください。

優秀賞『明日の日記』他

PROFILE

保留トビユキ

プロフィール

(ほりゅう とびゆき)

愛知県在住。

受賞の言葉

これからもっとたくさん描いて、技術的にも上手くなって、いいものが描けるようになりたいです。

選評

CARNELIAN

シチュエーションや作品タイトルに大変「夢」を感じました。感性がとても素晴らしいと思います。絵も動きがあったり、絡んでいたりと、工夫があって楽しかったです。ただ、肝心の美少女キャラクターの表情が、どれも硬く、瞳の威力が薄いです。瞳のハイライトが小さく黒目がちで、眉毛も同じ場所にはりついてしまっているせいかもれません。ぜひ一度鏡の前でいろんな表情をしてみ、眉毛の位置や形、まぶたや頬の表情を観察してみてください。驚くほど豊かに変化すると思います。小物の衣装処理も、プロになるには今一步工夫がたりません。模様やタックやプリーツなど形状を描き込んでいくだけでも存在感はでるかと。布ではなく衣服として感じさせるために、たとえばレースはレースらしい透かし模様を入れたり、壁や額縁の中の絵なども、テクスチャーを只張るのではなく、馴染むように処理したり、自分で描いたりして絵の完成度を高めてみてはどうでしょうか？ 存在感の演出を磨けば、将来が非常に楽しみな方だと感じました。

木村明広

様々な構図、様々な雰囲気、様々なシチュエーションにチャレンジしようという姿勢を感じました。描き慣れたる感も見受けられますが、キャラクターの表情にもうひと越え欲しいかな……。あと陰影の付け方などにもう少しオリジナリティが出ればいいですね。実力はありますので、あまりフィルタなどに頼らずに腕を磨いていって下さい。

天広直人

デザインやシチュエーションは、他の応募作に比べて多彩で、イメージする世界の種類の幅が伝わります。彩色にも充実感があって、見ごたえがあります。描線には、いまひとつ不安が残ります。仕上げに頼らない、生の絵も見たいと思います。



優秀賞『自由の花嫁』

PROFILE

碧風羽

プロフィール

(みどりふう)

埼玉県出身。現在は都内の美術大学に通う傍ら、フリーで活動。鷗と花が好き。

受賞の言葉

今回は大変素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。日々挑戦を忘れずに、これからも努力してまいります。

選評

CARNELIAN

数多い応募作品の中で、抜きでた画力と色彩が目目を惹きました。透けたドレスの淡い色と、影入れが美しく、この作品のコメントはそれに付きだと思います。この一枚だけでなく、もっと違ったシチュエーションやキャラクター達を見てみたいです。キャラデザインにもっと個性が出て、応募作品があと数枚あったら大賞候補でした。

木村明広

枚数に頼らず、オンリーワンで勝負って姿勢に自信を感じます。それだけに絵から雰囲気と物語を感じました。質感の表現や構図の取り方は技術ですが、その絵から醸し出す雰囲気はセンスによる所が大きいので、それは才能だと思います。とにかく私はこの絵から「エロさ」を感じました。それも大事な事なんです（私的には）。

天広直人

上手いです。「美少女」というジャンルの中で、画力に対しての不安はありません。ただ、それ以外の部分、キャラクターメイクのセンスや、シチュエーションを伝える演出力は、このイラストのみからは判断ができません。もっとたくさんさんの作品を見せてください。



佳作『メリークリスマス』他

PROFILE

プロフィール

重戦車工房

(じゅうせんしゃこうぼう)

愛知県在住。ゲームソフト開発会社にて10年勤務。その後フリー。現在、文庫挿絵、雑誌等のイラストレーター、漫画家として活動する一方、オリジナル作品についての思考と模索を続けている。

受賞の言葉

現在フリーとして、いろいろと舵取りの難しい局面に直面し、今後の活動のための自信を付けようと応募したのですが、そんな気軽な応募で思わぬ賞をいただけてしまって、嬉しく思うと同時に、申し訳なくも思っています。

選評

CARNELIAN

すでにプロとして活動されてるだけあって、線運びや構図が慣れていて安定感を感じます。ただ、そこが長所で短所なのかもしれません。色彩やデザインにも作家さんなりの個性がもっと出ればいいと思います。背景や人物数人の絡んだ構図など、世界感もありこんだ美少女絵があってもよかったかもしれません、ぜひ見てみたいです。

木村明広

見せ方を心得てますね。色の合わせ方等、これは経験の成せる技です。しかしきつと描けるんでしょうが、キャラの表情のバリエーションがあまりにも少なかったのが残念。似た様な絵がふたつもあったり……もっと感情豊かな絵が見たかったです。色んな塗り方が出来るようですが、それはさしたる問題じゃありません。自分の最も得意な絵で勝負しましょう。腕はマル!

天広直人

描線は丁寧で、とてもこなれています。デザイン力もあると思います。ただ、そのケレン味が、今回あまりインパクトにつながらないのは惜しいです。もっと思い切りキャラを立たせたり、世界観に集中したり、と、いろんなアプローチがあれば、評価はさらに高かったでしょう。



佳作『ブレイクタイム』

PROFILE

プロフィール

松本曜介

(まつもと ようすけ)

香川県生まれ。大学卒業も間際に迫った頃、突如、絵に目覚め、そのまま上京。現在、アルバイトで生計を立てつつ創作中。

受賞の言葉

暗中模索の日々に立ち位置を与えてくださった皆様に心より感謝いたします。今後、より大きな歓喜の輪に加わることができるよう、描き続けていこうと思います。

選評

CARNELIAN

隅々まで描き込まれた背景、モチーフの細かさやおもしろさが目を引きました。色も美しく暖かい雰囲気を感じるのですが、残念ながら画風が既存の作家さんの影響がおおきく、オリジナル作品としての威力が弱まってしまいました。少女の表情や顔のパーツの描き方を、自分なりに研究して描いてみて欲しいです。画力の高い人なので、漫画絵を参考にするのでなく実写から自分なりのデフォルメ方法を模索してみてもどうでしょうか?

木村明広

一瞬誰もが思った某雑誌表紙……。よっぽどリスペクトされたんでしょうね。リスペクトは大事です。誰もが通る道ですから。きっとまだその最中なんだと思います。これだけ吸収できているのですから、これに自分の絵が生まれ出したらかなり行けるんじゃないでしょうか? まずはキャラが背景に負けないくらいの魅力を持つ事を目指しましょう。キャラ単体でも行けるくらいに。

天広直人

画力もセンスもありますので、描線や彩色、一つ一つにもっと丁寧さがあれば、ワンランク上の評価になったでしょう。一番大切な、キャラクターの表情ひとつ、しぐさひとつにも、もっとこだわってみてください。



奨励賞『林檎姫』他

PROFILE

プロフィール

片瀬悠司

(かたせ ゆうじ)

岩手県岩手郡滝沢村在住。

受賞の言葉

今回、このような賞をいただくことができ、とてもうれしいです。これを糧にして、もっといい絵を描けるように精進していきたいと思っています。ありがとうございました!

選評

CARNELIAN

応募作品一枚毎に絵柄の雰囲気が違ったり、まだまだ固まらず発展途上ながらも、それゆえに発する若々しいパワーを感じました。これからのたくさん描いていけば、数年後には私たち選考委員をびっくりさせてくれる存在になるんじゃないでしょうか? 期待を込めて。

木村明広

インパクトにおいては群を抜いていました。雰囲気も独特で勢いも感じます。ただそれにまだデッサン力が追いついていない感じ。変な骨格や無謀なポーズなど、普段当たり前に見ているものである程、人は無意識にその異常に敏感に気づくもの。まだ若いので修行の時間はたっぷりあります。デッサンは描き続けられれば自然と上達していくものです。頑張ってください!

天広直人

ファンジンの印象が非常に強い点で、意見の分かれるところだと思いますが、個人的には好感を持って推しました。これからの期待したいと思います。



奨励賞『お昼休み』他

PROFILE

プロフィール

羽坂莉桜

(はねさかりお)

現在、東京在住。フリーで広告系のイラスト描きとマンガ家のアシスタントをしつつ、ひっそりと暮らしています。

受賞の言葉

このたびは、多数の応募の中から奨励賞をいただくことができ、とても嬉しいです。今後一層精進して、カワイイ女の子の研究に動きたいと思っています(笑)。

選評

CARNELIAN

ペルトーンが美しいですね、食べ物もとてもおいしそう。テクスチャーが張ったまま未処理だったり、技術的にツメが甘いのですが、全体から感じる優しさやモチーフが美少女らしく可愛いと感じました。

木村明広

いわゆるロリキャラと呼ばれる絵ですが、最近是这样いった絵柄が氾濫しているの、その中でどうやって突き出るか……が今後の課題ですね。背景は手慣れただけあって見事ですが、あまりにもキャラとの雰囲気が合いません……と言うと変に思われそうですが、要するに面白くないんですよ。当たり前すぎる感じがどうしてもあって残念。もう少し現実感を詰め込んでみては?

天広直人

破綻なくまとまった、クリーンな作品です。アグレッシブな面が薄い、というところで評価が分かれるのですが、個人的にはデザイン、色ともに好感を持ってました。



えんため大賞 受賞作リスト

第1回ファミ通エンタテインメント大賞 1999年

大賞 該当作なし

小説部門

最優秀賞

佳作

「ボディガード」荒井千明
「夜空に、満天の星」桜庭一樹
「かがみのうた」神野オキナ

コミック部門

最優秀賞

入賞

佳作

「底抜けサーカス団」鈴木マサカズ
「サムライ盛星」須田信太郎
「犬。」小澤けいこ

イラスト部門

最優秀賞

入賞

奨励賞

「無題」アサダヲサム
「無題」山村真紀
「無題」藤田順子

ドラマ企画書部門

最優秀賞

入賞

奨励賞

「風水娘 睡蓮」大田原智子
「WILD DIAMOND」深見 真

東放学園特別賞(小説)

「きみの願い、ぼくの望み」青山カナコ

第2回ファミ通エンタテインメント大賞 2000年

大賞 該当作なし

小説部門

最優秀賞

入賞

佳作

「深緑の魔女」伊東孝泰
「パラレル・パラダイム・パラダイス」飛田 甲
「GUNNER」てつまよしとう

コミック部門

最優秀賞

佳作

「大きな出会いと小さな革命」山根 大
「ホーロの光」へちまタワシ
「音楽伝説ABC物語」ヨシダプロ

ユニーク賞

イラスト部門

最優秀賞

入賞

「宵闇通り7番街」英 里
「無題」かじかかな
「無題」TAROSUKE

ドラマ企画書部門

最優秀賞

佳作

「プラントハンター蘭」堀川しんら
「人形神話」堀川しんら
「27人の悪魔使い」山田浩平

東放学園特別賞(小説)

「アルシア・ハード〜翼の後継者〜」鈴羽らふみ

第3回ファミ通エンタテインメント大賞 2001年

大賞 該当作なし

小説部門

最優秀賞

佳作

「赤城山卓球場に歌声は響く」野村美月
「3ヶ月の魔法」上島拓海

コミック部門

最優秀賞

優秀賞

入賞

佳作

「雪のマフ」千田悟史
「白い本」保永知恵
「スペーススラッメン」ヒメノ司ロウ
「白箱2001」よつやひかる
「酒と煙草と煙」山地由花
「SWORD MAKER」十尺まほ
「TEXA S9」中嶋教介

奨励賞

イラスト部門

最優秀賞

優秀賞

佳作

「いつも一緒」笛吹りな
「読書」NAKATO
「ベンチャーズ」八多友真
「ミツコ医院」安藤高行

ドラマ企画書部門

最優秀賞

優秀賞

入賞

選考委員特別賞

奨励賞

「刀京始末綱」中川トシヒロ
「邪宗門」海之帝國社
「ドキドキ魔法船リリンシタイトエンプレス」吉澤絵美
「渋谷系銀ちゃん」西田賢二
「白夜」中里友香

東放学園特別賞

該当作なし

第4回エンターブレインえんため大賞 2002年

小説部門

大賞

優秀賞

佳作

「この時代に生きることを」坂本和也
「カレディナ・ブラウスキュル」朝倉 衛
「白話草の香り」清藤コタツ

東放学園特別賞(小説)

「永久駆動バベットショウ」豊倉真幸

コミック部門

大賞

優秀賞

佳作

「oto chan」さかいわたる
「二十六年の男と一人の少女」田邊 剛
「ファンタジー・ファン」マナベウミ
「アコリンピック」みずたまさやす

イラスト部門

大賞

優秀賞

佳作

選考委員特別賞

「シャッターチャンス」G3
「Jump-off」御崎智歌
「大切な風景」浅井あきひろ
「白夜を渡る龍の船団」鳥取砂丘

第5回エンターブレインえんため大賞 2003年

小説部門

大賞

優秀賞

佳作

「吉永さん家のガーゴイル」田口仙年堂
「朱き女神の杜」星隈真野
「精霊境界ディメンティア」荒川要助
「閉鎖師ウウと黄昏恋歌」眞 智史

編集部特別賞

イラスト部門

大賞

優秀賞

佳作

選考委員特別賞

「姉妹姫」終 暁生
「森のシャワーベット」野中 友
「ただいま…」AYARA
「スクール水着」ゆうすけ
「砂漠の約束」まんじゅ
「プリンセス・スイーツ」桜木 晶

東放学園特別賞(小説)

「新説 無月物語 The Dark Tales」靴沢ゆうき
「悪夢の配分」荒城勇哉

コミック部門

大賞

優秀賞

佳作

「欲望という名のファミレス」小森谷寛
「さいごのふたり」すぎうらあきら

第6回エンターブレインえんため大賞 2004年

小説部門

大賞

優秀賞

優秀賞

佳作

「渚のロプスター少女」あきさか あさひ
「緑電亭繁盛記」橋 柑子
「超高速機動粒子炉船 春一番」出泉乱皇
「狂乱家族日記」日日日

東放学園特別賞(小説)

「生ける少女のパヴァーヌ」佐藤了

コミック部門

大賞

優秀賞

佳作

奨励賞

奨励賞

奨励賞

「Sweet Night 18」高藤まり
「予知夢」米山 毅
「Xploitation」岩瀬玲子
「うつつの幻画堂」原 鮎美
「乙女の祈り」松本 藍

イラスト部門

大賞

優秀賞

佳作

奨励賞

奨励賞

奨励賞

「明日の日記」保留トビユキ
「自由の花嫁」碧 風羽
「メリークリスマス」重戦車工房
「ブレイクタイム」松本曜介
「林檎姫」片瀬悠司
「お昼休み」羽坂莉桜